

介護老人保健施設ルーエしもつま（介護予防）通所リハビリテーション運営規程

（運営規定設置の主旨）

第1条 医療法人光潤会が設置経営する介護老人保健施設ルーエしもつま（以下「施設」という。）において実施する通所リハビリテーションの適正な運営を確保するために、人員及び管理運営に関する事項を定める。

（事業の目的）

第2条（介護予防）通所リハビリテーションは、要介護状態（要支援）と認定された利用者（以下単に「利用者という。」）に対し、介護保険法令の主旨に従って、通所リハビリテーション計画を立て実施し、利用者の心身の機能の維持回復を図ることを目的とする。

（運営の方針）

第3条 当施設では、（介護予防）通所リハビリテーション計画に基づいて、理学療法等必要なリハビリテーションを行い利用者の心身の機能の維持回復を図り、利用者が1日でも長く居宅での生活を維持できるよう在宅ケアの支援に努める。

- 2 当施設では、利用者の意思及び人格を尊重し、自傷他害の恐れがある等緊急やむを得ない場合以外、原則として利用者に対し身体拘束を行わない。
- 3 当施設では、介護老人保健施設が地域の中核施設となるべく、居宅介護支援事業者、その他保健医療福祉サービス提供者及び関係市町村と綿密な連携をはかり、利用者が地域において統合的サービス提供を受けることができるよう努める。
- 4 当施設では明るく家庭的雰囲気重視し、利用者が「にこやか」で「個性豊かに」過ごすことができるようサービス提供に努める。
- 5 サービス提供にあたっては、懇切丁寧を旨とし、利用者又はその家族に対して療養上必要な事項について、理解しやすいように指導又は説明を行うとともに利用者の同意を得て実施するよう努める。

（施設の名称及び所在地）

第4条 当施設の名称所在地等は次のとおりとする。

- （1）施設名 介護老人保健施設 ルーエしもつま
- （2）開設年月日 平成9年7月15日
- （3）所在地 茨城県下妻市江1832番地
- （4）電話番号 0296-44-8000 FAX番号 0296-44-8121
- （5）介護保険指定番号 介護老人保健施設（第0851080010号）

（従業者の職種、員数）

第5条 通所リハビリテーションに係る従事者の職種、員数は次のとおりであり、必置職については法令の定めるところによる。

| | |
|----------------------|---|
| 医師 | 常勤1人（兼務） |
| 看護職員 | 1単位毎に左記職種の合計人数が利用者数を10で割った数以上、そのうち理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のいずれかが1名以上 |
| 介護職員 | |
| 理学療法士・作業療法士 言語聴覚士 | |

(従業員の職務内容)

第6条 前条に定める当施設職員の職務内容は、次のとおりとする。

- (1) 管理者は、介護老人保健施設に携わる従業者の管理指導を行う。
- (2) 医師は、利用者の病状及び心身の状況に応じて、日常的な医学的対応を行う。
- (3) 看護職員は、医師の指示に基づき投薬、検温、血圧測定等の医療行為を行うほか、利用者の（介護予防）通所リハビリテーション計画に基づく看護を行う。
- (4) 介護職員は、利用者の（介護予防）通所リハビリテーション計画に基づく介護を行う。
- (6) 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のいずれかは利用者のリハビリテーションプログラムを作成するとともに、計画の作成変更を行い、機能訓練の実施に際し指導を行う。

(営業日及び営業時間)

第7条 (介護予防) 通所リハビリテーションの営業日及び営業時間は以下のとおりとする。

- (1) 祝祭日を除く、毎週月曜日から土曜日までの6日間を営業日とする。
但し、祝祭日については当施設カレンダーによる。
- (2) 営業日の午前9時から5時までを営業時間とする。

(利用定員)

第8条 (介護予防) 通所リハビリテーションの利用定員数は1単位目50名、2単位目25名、計75名とする。

(通所リハビリテーションの内容)

第9条 通所リハビリテーションは医師、理学療法士等リハビリスタッフによって作成される通所リハビリテーション計画に基づいて理学療法その他必要なリハビリテーションを行う。

- 2 (介護予防) 通所リハビリテーション計画に基づき、入浴介助を実施する。
- 3 (介護予防) 通所リハビリテーション計画に基づき、食事を提供する。
- 4 (介護予防) 通所リハビリテーション計画に基づき、居宅間の送迎を実施する。
- 5 (介護予防) 通所リハビリテーション計画に基づき、リハビリマネジメントを実施する。
- 6 (介護予防) 通所リハビリテーション計画に基づき、栄養マネジメントを実施する。
- 7 (介護予防) 通所リハビリテーション計画に基づき、口腔機能向上サービスを実施する。

(利用者負担の額)

第10条 (介護予防) 通所リハビリテーションの利用料の額は厚生労働大臣が定める基準（別紙利用料金表による）によるものとし、(介護予防) 通所リハビリテーションが法定代理受領サービスであるときは負担割合証に記載された割合及び食事の標準負担の額とする。

- 2 その他日常生活に係る費用の徴収が必要となった場合は、その都度利用者又はその家族に説明し、同意を得たものに限り徴収する。

(通常の事業の実施地域)

第11条 通常の事業の実施地域は以下のとおりとする。

下妻市、筑西市（旧協和町を除く）、結城市、八千代町、常総市（旧石下町のみ）

第12条 (介護予防) 通所リハビリテーション利用に当たっての留意事項を以下のとおりとする。

- ・ 火気の取り扱いが必要な有る場合、職員立会いの元で取り扱う。

- ・ 設備・備品の利用は使用目的にそって使用する。
- ・ (介護予防) 通所リハビリテーション利用時の医療機関での受診は施設に相談する。
- ・ ペットの持ち込みは禁止する。
- ・ 利用者の「営利行為、宗教の勧誘、特定の政治活動」は禁止する。
- ・ 他利用者への迷惑行為は禁止する。

(非常災害対策)

第 13 条 消防法施行規則第 3 条に規定する消防計画及び風水害、地震等の災害に対処する計画に基づき、また、消防法第 8 条に規定する防火管理者を設置して非常災害対策を行う。

- (1) 防火管理者には事務長を充てる。
- (2) 火元責任者には、職員を充てる。
- (3) 非常災害用の設備点検は、契約保守業者に依頼する。点検の祭は、防火管理者が立ち会う。
- (4) 非常災害設備は、常に有効に保持するよう努める。
- (5) 火災の発生や地震が発生した場合は、被害を最小限にとどめるため、自衛消防隊を編成し、任務の遂行に当る。
- (6) 管理者は、従業員に対して防火教育、消防訓練を実施する。
 - ① 防火教育及び基本訓練(消火・通報・訓練)・・・年 2 回以上
(うち 1 回は夜間を想定した訓練を行う)
 - ② 利用者を含めた総合避難訓練・・・・・・・・・・年 1 回以上
 - ③ 非常災害用設備の使用法の徹底・・・・・・・・・・随時
- (7) その他必要な災害防止対策についても必要に応じて対処する体制をとる。

(緊急時における対応方法)

第 14 条 職員は利用者に緊急事態が生じたときは、直ちに施設長に報告するとともに、主治医或いは協力医療機関に連絡し、医師の指示に従う。なお、その間必要に応じて適切な措置を講じなければならない。

(事故発生の防止及び発生時の対応)

第 15 条 当施設は、安全かつ適切に、質の高い介護・医療サービスを提供するために、事故発生防止のための指針(別添)を定め、介護・医療事故を防止するための体制を整備する。また、サービス提供などに事故が発生した場合、当施設は、利用者に対し必要な措置を行う。

(職員の職務規律)

第 16 条 職員は関係法令及び諸規則を守り、業務上の指示命令に従い、自己の業務に専念する。服務に当っては、協力して施設の秩序を維持し、常に次の事項に留意すること。

- (1) 入所者や通所者に対しては、人格を尊重し親切丁寧を旨とし、責任をもって接遇すること。
- (2) 常に健康に留意し、明朗な態度を失ってはならない。
- (3) お互いに協力し合い、能率の向上に努力するよう心掛けること。

(職員の質の確保)

第 17 条 施設職員の資質向上のために、その研修の機会を確保する。

(職員の勤務条件)

第 18 条 職員の就業に関する事項は、別に定める医療法人光潤会の就業規則及び職種別の職務規程による。

(職員の健康管理)

第 19 条 職員は、この施設が行う年 1 回の健康診断を受診すること。

(衛生管理)

第 20 条 利用者の使用する施設、食器その他の設備又は飲用に供する水について、衛生的な管理に努め、又は衛生上必要な措置を講ずるとともに、医薬品及び医療用具の管理を適正に行う。

2 食中毒及び伝染病（感染症）の発生を防止するとともに、蔓延することがないように、水廻り設備、厨房設備等の衛生的な管理を行う。

3 栄養士、調理師等厨房勤務者は、毎月 1 回、検便を行わなければならない。

4 定期的に、鼠族、昆虫の駆除を行う。

5 施設において、感染症又は食中毒が発生し、又はまん延しないように次の各号に掲げる措置を講じるものとする。

(1) 施設における感染症又は食中毒の予防及びまん延の防止のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）をおおむね 3 月に 1 回以上開催するとともに、その結果について、従業者に周知徹底を図る。

(2) 施設における感染症の予防及びまん延の防止のための指針を整備する。

(3) 施設において、従業者に対し、感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止のための研修並びに感染症の予防及びまん延の防止のための訓練を定期的実施する。

(4) 前 3 号に掲げるもののほか、「厚生労働大臣が定める感染症又は食中毒の発生が疑われる際の対処等に関する手順」に沿った対応を行う。

(協力医療機関等)

第 19 条 施設は、利用者の病状の急変等に備えるため、あらかじめ、次の各号に掲げる要件を満たす協力医療機関を定めるものとする。

一 利用者の病状が急変した場合等において医師又は看護職員が相談対応を行う体制を、常時確保していること。

二 施設からの診療の求めがあった場合において診療を行う体制を、常時確保していること。

2 施設は、1 年に 1 回以上、協力医療機関との間で、利用者の病状が急変した場合等の対応を確認するとともに、協力医療機関の名称等を、市長に届け出るものとする。

3 施設は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成 10 年法律第 114 号）第 6 条第 17 項に規定する第二種協定指定医療機関（次項において「第二種協定指定医療機関」という。）との間で、新興感染症（同条第 7 項に規定する新型インフルエンザ等感染症、同条第 8 項に規定する指定感染症又は同条第 9 項に規定する新感染症をいう。次項において同じ。）の発生時等の対応を取り決めるように努めるものとする。

4 施設は、協力医療機関が第二種協定指定医療機関である場合においては、当該第二種協定指定医療機関との間で、新興感染症の発生時等の対応について協議を行うものとする。

5 施設は、あらかじめ協力歯科医療機関を定めておくよう努めるものとする。

(虐待防止に関する事項)

第 20 条 施設は、利用者の人権の擁護、虐待の発生又はその再発を防止するため次の措置を講ずるものとする。

(1) 虐待防止のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を定期的に開催するとともに、その結果について従業者に周知徹底を図る

- (2) 虐待防止のための指針の整備
 - (3) 虐待を防止するための定期的な研修の実施
 - (4) 前3号に掲げる措置を適切に実施するための担当者の設置
- 2 施設は、介護保健施設サービス提供中に、当該施設従事者又は養護者（利用者の家族等高齢者を現に養護する者）による虐待を受けたと思われる利用者を発見した場合は、速やかに、これを市町村に通報するものとする。

（身体拘束）

- 第21条 施設は、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束その他利用者の行動を制限する行為（以下「身体的拘束等」という。）は行わない。やむを得ず身体拘束を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録するものとする。
- 2 施設は、身体的拘束等の適正化を図るため、次に掲げる措置を講じる。
- 一 身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を3月に1回以上開催するとともに、その結果について、介護職員その他の従業者に周知徹底を図るものとする。
 - 二 身体的拘束等の適正化のための指針を整備する。
 - 三 介護職員その他の従業者に対し、身体的拘束等の適正化のための研修を定期的実施する。

（地域との連携）

- 第22条 施設は、その運営にあたっては、地域住民又はその自発的な活動等との連携及び協力を行う等の地域との交流を図るよう努めるものとする。
- 2 施設は、その運営にあたっては、提供した介護保健施設サービスに関する利用者又はその家族からの苦情に関して市等が派遣する者が相談及び援助を行う事業その他の市が実施する事業に協力するよう努めるものとする。

（業務継続計画の策定等）

- 第23条 施設は、感染症や非常災害の発生時において、利用者に対する介護保健施設サービスの提供を継続的に実施するための、及び非常時の体制で早期の業務再開を図るための計画（以下「業務継続計画」という。）を策定し、当該業務継続計画に従い必要な措置を講じるものとする。
- 2 施設は、従業者に対し、業務継続計画について周知するとともに、必要な研修及び訓練を定期的実施するものとする。
- 3 施設は、定期的に業務継続計画の見直しを行い、必要に応じて業務継続計画の変更を行うものとする。

（秘密保持及び個人情報の取り扱い）

- 第21条 職員は業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を保持する。
- 2 職員であった者に、業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を保持させるため、職員でなくなった後においてもこれらの秘密を保持するべき旨を、職員との雇用契約の内容とする。
 - 3 施設では、利用者の尊厳を守り安全に配慮する理念の下、お預かりしている個人情報について、利用目的（別添）に沿って取り扱っております。

（苦情の処理）

- 第22条 利用者からの相談や苦情等に対応する担当者を設置し早期、適切に処理をする。

(その他運営に関する重要事項)

第 23 条 地震等非常災害その他やむを得ない事情の有る場合を除き、定員を超えて利用させない。

2 運営規定の概要、施設職員の勤務体制、協力病院、利用者負担の額及び苦情処理の対応については、施設内に掲示する。

3 (介護予防)通所リハビリテーションサービスの提供に関する諸記録は、茨城県条例に定めるものを整備し、サービスを提供した日から5年間保存する。

4 (介護予防)通所リハビリテーションに関連する政省令及び通知並びに本運営規程に定めのない、運営に関する重要事項については、医療法人光潤会介護老人保健施設ルーエしもつまの運営会において定めるものとする。

付則

この運営規程は平成12年4月1日より実施する。

この運営規定は平成15年5月1日より実施する。

この運営規程は平成18年4月1日より実施する。

この運営規程は平成21年2月1日より実施する。

この運営規程は平成24年4月1日より実施する。

この運営規程は平成30年4月1日より施行する。

この運営規程は令和元年11月1日より施行する。

この運営規程は令和4年8月16日より施行する。

この運営規程は令和6年4月1日より施行する。

この運営規程は令和6年12月1日より施行する。